

第 2 回浜田市立学校統合計画審議会議事録

日 時：平成 29 年 8 月 10 日（木） 18：30～19：58

場 所：浜田市役所 4 階講堂 AB

議事

- 1 会長あいさつ
- 2 資料説明（資料 1-1～資料 6-2）
- 3 協議事項
- 4 その他

1 会長あいさつ

事務局

最初に、委員の変更があったので、紹介させていただく。

また、本日の会議には現在 11 名の出席をいただいているので、14 名のうち 11 名ということで半数の 7 名以上の出席があるので、この会議については成立をしているということで報告させていただく。

事前に資料を送らせていただいているが、今日改めて資料をお配りしている。若干の修正を加えたりしているので、お送りしたのではなく本日お配りしたものを今日の会議ではご確認いただければと思う。

併せて、資料を毎回配らせていただくので、増やせるタイプの紙ファイルをお配りしているので、またそちらをご利用いただければと思う。

会 長

委員方には日中のお仕事でお疲れのところ、また本日の会議は夕方ということで大変おいでにくいところ出席をいただきありがとうございます。

今日は第 2 回の学校統合計画審議会ということでご案内させていただいているが、事務局からもお話があった様に事前に資料を送付いただいております、委員方には一応一読いただいたものと思っているが、特に資料の中でご覧をいただいております様に、島根県の学校基本調査結果の速報として出ているものを見ると、小学校の在学者数が前年度より 267 人減少、あるいは中学においても前年度より 481 人減少となっている。小学校も中学校も、あるいは高校も減少の傾向の速報値が出ている。

非常に学校を取り巻く環境や問題が大きくクローズアップさ

れ、全国的にも色々と報道されているところである。

そういった面で学校統合計画審議会というのは非常に慎重を期すべき会で、今後の大きな課題になるだろうと思っている。

今日は第2回ということだが、まず実態を十分把握いただいてそれに伴って委員方から色々なご意見を頂戴したいと思う。よろしくお願ひしたい。

2 資料説明資料（資料 1-1～資料 6-2）

事務局

名簿の次に資料の一覧を付けている。

資料1関係から資料6関係まで一括して説明したいと思うのでよろしくお願ひしたい。

それでは、資料1-1 浜田市内小学校区から説明する。

この図については浜田市内の小学校区を表記している。赤い点についてはそれぞれの小学校の位置ということで掲載している。

1枚めくっていただき、資料1-1の2については資料1-1で四角で囲っているところを拡大したものになっているので、またご覧いただけたらと思う。

続いて資料1-2である。これは小学校間の距離を掲載している。隣接する小学校のそれぞれの距離となっている。併せて資料1-3をご覧いただきたい。

資料1-3についてはそれぞれの小学校の距離を矢印で記載している。

なお、この距離についてはグーグルマップで距離を測っているので、実際の距離とは多少違うかもしれないが、そのことについてはご承知いただきたいと思う。

続いて資料1-4については小学校間の距離並びに児童数及び学級数を掲載している。

先ほど1-2、1-3のところでは学校間の距離を掲載しているが、その内容に対して、それぞれの学校の児童数、学級数、それから建物の種別、種別については校舎棟、屋内運動場等になるが、建物種別については建築年月、残りの耐用年数を記載している。

構造種別のところは、R、S、Wという様に略称で表記しているが、資料下のところをご参照いただければと思う。Sについては鉄骨造、Rについては鉄筋、Wについては木造を表記している。

それぞれの耐用年数だが、鉄骨造については40年、鉄筋については60年、木造については40年という耐用年数があるので、その

耐用年数から残りの年数を掲載している。

なお、各学校の児童数及び学校数については平成 29 年 5 月 1 日現在の内容を掲載している。

また、掲載している耐用年数については平成 29 年 4 月 1 日現在としているので、ご承知おきいただければと思う。

続いて資料 2-1 をご覧いただきたい。先ほどは小学校区の掲載だったが、同様に中学校区として掲載したものである。なお、旧那賀郡である金城自治区、旭自治区、弥栄自治区、三隅自治区については、その自治区で校区が設定されていることをご承知おきいただければと思う。

この表については浜田自治区内のそれぞれの学校区、概ねの学校の位置を書いているので参照していただきたい。

続いて資料 2-2 をご覧いただきたい。隣接する中学校間の距離を掲載している。これについてもグーグルマップで積算した距離を掲載しているのご承知おきいただければと思う。

続いて資料 2-3 である。2-2 のところで表として掲載したものを図としてこの様な矢印で表記している。

続いて資料 2-4 である。先ほど小学校でも掲載しているが、それを中学校版に直したものであり、各中学校からの距離並びに生徒数及び学級数を掲載している。

また、それぞれの建物種別として同様に掲載しているので、ご覧いただけたらと思う。

続いて資料 3-1 である。これについては先日送付させていただいているが、平成 29 年度学校基本調査結果（島根県分）速報として 8 月 3 日に出されたものである。

これについて調査結果の概要だが、在学者数のところで小学校の児童数は 34,894 人ということで、前年度より 267 人減少している。それから中学校は 18,246 人で、前年度から 481 人減少となっている。

めくっていただき 2 ページで、表 1 について小学校、中学校、高等学校等の児童・生徒数の推移ということで掲載されている。

続いて 4 ページをご覧いただきたい。調査結果として 3 番、小学校のところ、表 4 になるが、学校数 204 校、前年度より 2 校減少。児童数については 34,894 人、前年度より 267 人減少している状況である。

また、4 番の中学校のところだが、学校数として 102 校、前年度

と同数となっている。生徒数は 18,246 人、前年度より 481 人減少している。但し、この人数等については国立、公立、私立の合計となっている。

続いて 8 ページをご覧ください。ここには国公立の合計だが、それぞれの状況、県内の状況が掲載されている。

続いて資料 3-2 をご覧ください。この表は公立学校に限定して県内 8 市の状況として掲載している。

浜田市においては小学校が児童数 2,580 人、学校数 16 校となっている。そのうち複式ということで児童数については 85 人、学校としては 5 校となっている。

同様に中学校については、生徒数は 1,362 人、学校数が 9 校ということである。

同様に県内 8 市の状況としてそれぞれ松江市から雲南市までのところの状況を掲載しているの、またご覧ください。

続いて資料 3-3 をご覧ください。前年度平成 28 年度の状況を掲載しているの、比較としてまた見ていただければと思う。

続いて資料 4 である。県内 8 市の 28 年度、29 年度の公立学校の状況と先ほどあったが、これは平成 21 年度から平成 29 年度までのそれぞれの間の経年ごとの動向として見ていただきたいと思います。

なお、出雲市について平成 24 年度のところだが、学校数でいえば 4 校増えている状況。それから松江市については 3 校増えて 35 校となっている。これについて 24 年度の初年のところだが、松江市については東出雲町との合併、それから出雲市については斐川町との合併があり、増えているということになっているの、ご承知おきいただければと思う。

1 段目は学校数、2 段目は児童数である。3 段目は 1 校あたりの単純平均児童数であり、これは学校数を母数として児童数を割ったものである。学校数を児童数で割ったものが児童 1 人あたりの単純平均学校数として参考までに掲載している。これについてはまたご覧ください。

続いて 2 ページ目だが、これについては複式学級の状況として同様に掲載している。また参考としてご覧ください。

続いて資料 5 である。これは中学校について掲載している。

同様に松江市については 24 年度のところでは 1 校増えている。これも東出雲町と合併したことにより増えている。それから出雲市については斐川町が合併したことにより増えているという状況で

ある。

同様に2ページのところではうち複式としているが、中学校については、基本的に複式はないのでゼロになっている。

資料1から5については以上である。

資料6について説明させていただく。諮問の関係について、少し具体的な資料を載せている。

前回第1回目を開催した翌日には山陰中央新報で統合を諮問したという様な記事が大きく出ていた。その中で、複式の学校ということで美川小学校、岡見小学校、今福小学校、波佐小学校、弥栄小学校が出ており、前回も説明した様に、統合ありきの諮問ではないということを行っているが、ただ新聞の出方を全然知らない方が読まれると、この学校は統合なのか、廃校なのか、中学校もするのかという様な意見があり、教育委員を含め関係者からそういったことはないといった説明をさせていただいたり、議会でも説明したりしているが、どうしても新聞というのは週刊誌とまでは言わないが、見出しなり内容については少しインパクトのある様な書き方をされるので、若干会議に出られた方は分かると思うが、本意とは違う様な書き方がされているので、その辺はあくまでも前回お話した様に統合ありきではないということをご理解いただいた上でしっかり検討していただければと思う。

現在も、今回資料に確かに複式学級があるということでこの5校を載せているが、この5校のいわゆる地元とか保護者の方から児童数の減少による統合とかいう話は一切出ていない。これは現時点での事実としてご確認いただければと思う。

ただ、現実問題複式があるということと、児童数の推計を出している様に、全体の児童数が減っている中でどういった問題が出るのか、今後学校運営ができるのかということも含めてこの資料で説明させていただければと思う。

まず美川小学校だが、木造校舎であり耐用年数がすでに過ぎている。児童数は57名で、今3年生と4年生が複式学級となっている。

今後の見込みだが、増えたり減ったりしながらの現状維持かなという見込みがあるところに併せて、美川地区では雇用促進住宅があるが、これを若者定住住宅ということで建築をして地域の活性化を図りたいという方法を探っているの、そういったことが通れば増の見込みもあるという様な状況にある。

今福小学校についても一定の増減、平成34、5年になると少し減

るかなというところがあるが、しばらくは複式を取りながら3クラスではなく、4クラス、5クラスということで一部複式が続く状況であるということと、建物もまだ当面耐用年数が10年以上あるということ、非木造なので、現状のままでいけるのかなというイメージを持っている。

今一番児童数の少ない波佐小学校だが、15人を下回ると教員が1名減るという状況があるので、その辺と、すでに学校の事務員の配置がないという様な心配をしているが、校舎自体はまだ十分持つということと、場所的に少し離れているということ、それと先般大雨の時もそうだし、雪の時もそうだが、気象条件が非常に厳しい地域のため、なかなかすぐに統合という話も厳しいかなという認識をしている。

確かに児童数は減っているが、前回お示しした中で文科省が適正規模と言いながらも地域の実情に応じたという変更をしたという説明をしたが、仮に統合しないという選択をした場合にどうするかという中で、地域との関係や地域の支援ということが盛り込まれている。一定規模の学習環境が必要だということは当然のことだが、やはりそれだけではなく地域の実情、あるいは仮に統合した場合は通学状況がどうなるのかといったことも踏まえて検討することが盛り込まれているので、この児童数の減少という面では私は非常に心配しているが、地域が色々な活動をされており、校舎の耐用年数も持つということがあるので、直接学校なり地域からどうしてもということが出ない限りは積極的な統合は今事務局側では考えていないということをご理解いただきたい。

弥栄小学校も現在3、4、5、6年生で複式ということで、これも見込にある様に増えたり減ったりしながら当面現状維持かなという状況にある。

弥栄はすでに小学校が1校、中学校が1校というところまで来ているので、これ以上統合となると、いわゆる自治区を越えてとなれば、先ほど言った様に通学面でも非常に負担がかかるという様なこともある。小学校、中学校とも体育館を新築している状況がある。校舎も弥栄小学校は木造で、非常に良いものを造っているということで、そういった面での教育環境は一定の整備がされているということである。

岡見小学校は3、4年生が複式学級になっているが、ここも今後若干増えるという様な見込みがされている。三隅火電の新たな第2

期工事が始まれば、工事関係者は家族を伴ってということはないかなかもしれないが、事務方も含めて一定の増の期待が持てるのかなという状況にある。

ここも校舎は耐用年数がまだ 10 年以上あるということなので、今回諮問した様な向こう 10 年間でという様なところであれば一定の教育環境は確保できるのかなという状況にある。

そういった中で一番心配するのは美川小学校ということで、美川小学校は木造ということもある。ここ数年前回の統合計画に基づいて市内、一番最初が旭小学校、国府小学校、長浜小学校、原井小学校と、新しく建った学校と非常に教育環境、設備面でも格差が出ている。

非木造の他の 4 校についてはまだ若干良いが、木造という部分も含めて非常にこの美川小学校については心配をしている。

併せて、ここには載せていないが、同じ木造で雲雀丘小学校が旧浜田にあるが、ここが 3、4 年前までは 130 人から 110 人くらいいたが、今は 58 人まで一気に減っている。今年の入学生は 3 人ということで、これはもともとこの校区に笠柄の県の大きな職員住宅があるが、これが老朽化してきたということもあり、県の職員の方が以前は家族連れで来ていただいていたが、非常に単身が増えたということで一気に減りつつある。こういった状況も含めながら、どちらかという旧浜田自治区で、旧浜田の周辺部、佐野、後野、有福、宇野、そういったところは前回の計画の中で統合を済ませているが、美川はその前に済ませて、東と西が統合して美川小学校になっている。各自治区よりも浜田の旧市街地の方が老朽化と合わせて、人口の減少も含めて少し心配かなという状況が出ている。

続いて裏面をご覧ください。

併せて資料 6-2 の各学校の耐用年数の件も載せている。学校施設の更新に係るということでの残耐用年数ということで載せているが、先ほど言った様にすでに経過している雲雀丘小学校、今後急激な減少も見込まれるところも木造で、耐用年数が経過している。

石見小学校は非木造だが、非常にここも老朽化している。昭和 37 年度建築であった国府小学校は建替えをしている。そういった面でも 1 年しか変わらない中で、国府小学校は統合という条件があったので、国のいわゆる補助金的なものが有利だったので建替えできたが、単独建替えは自己都合ということなので、補助金もあまり見込めない中では、ということもあり残っている。

複式学級であった美川小学校、中学校では第二中学校と木造の第四中学校について、仮にこれを新たな造成とかをせずに建替えをした場合、あくまでも概算だが、数か所今小学校が建っているが、そういったものを参考にすると、やはり小学校の小規模なもので18億円くらい、石見小学校だと規模が大きくなるので25億円くらいかかる。第二中学校は25億円、第四中学校は20億円くらい。仮にこの老朽化した6校を現状のまま残して建替えをした場合は単純に言えば約106億円ということで、非常に膨大な費用がかかるということである。

当然これを今後順次ということになっても非常に厳しい浜田市の財政状況の中では難しいのかなということに合わせて、仮に建てるという選択肢があった場合でも、一定の予算が付いたとしてまず設計関係が1年、建築が大体2か年、1つの学校の工事で3か年くらいを見ている。仮にこれをすべて予算化してやったとしても15年間ということになるので、耐用年数が過ぎた上にさらに15年間も待たせるのかということになっては、非常に財政的には厳しいのかなと思う。そうするとこういったところを統合とかあるいは再配置というところで検討いただければと事務局では考えさせていただいている。

前回はそうだし、今回も細かい資料を色々とお出ささせていただいたが、なかなか判断しにくいところもあるかと思うので、今回具体的な名前と現状のほどを少しお話をさせていただいて、今後の検討資料にさせていただければということである。

先ほど言った様に、結果的には旧浜田自治区の中のところをどうするかということが時間的にも、今でも耐用年数を過ぎている木造が残っている中では、子どもの教育環境の格差が拡大しているということの解消を考えていただく上では、少し優先的に検討していただければと思っている。

最初の諮問でさせていただいているが、校区とかそういったものの再配置も含めてになるが、やはり学校の配置をどうするかによって、その辺も引っ張られるのかなと思っている。

例えば第二中学校だが、これを建替えるのかあるいは極端な例を申し上げると第一中学校と第三中学校で分けるのか。先ほどあった校区エリアのところ、資料2の市内で見ただくと、浜田東中学校、第一中学校、第四中学校、第三中学校、第二中学校と非常に狭いエリアにある。旧市街地であり、人口もいるが、仮に第二中学校

を建替えなのか、あるいは分散なのかという話になれば現実論としては第二中学校の生徒を第一中学校と第三中学校で受け入れられるかと言われれば、受け入れることは可能である。

第一中学校と第三中学校も建った当時からいえば相当数子どもが減っているのに、建替えなのかあるいは先ほど言った、もしもということがあれば、生徒の受け入れが可能かということと言われれば可能な状況にある。それほど、他の自治区も含めて児童・生徒数は減っている。建築当時から言えば空き教室もある。

ただ、支援の必要な子どもが増えている関係でそういった教室は使っているが、今後も児童数増加の見込みがそれほどない中で、今後こういった改築であれば投資がいるという状況がある。特に中学校になると今部活の選択肢が非常になくなってきている。前回もお話させていただいたが、弥栄中学校は一生懸命頑張ってバスケットボール部が県大会に出たが、それで解散ということになっている。子どもの選択肢がないということが少し可哀想かなというところもある。

ただ先ほど言った様に弥栄は小・中学校が1校にまとまっている中で、陸上部とかそういったかたちで部活をしていきたいという選択肢を出されており、校舎あるいは体育館を建築したばかりということもあるので、その中ではすぐに統合ということは難しいのかなと思う。

そういう意味でも挙げている雲雀丘小学校、石見小学校、美川小学校、第二中学校、第四中学校、旧浜田辺りの校舎が非常に傷んでいるので、どうしていくかということが今後の施設管理上のところでも懸念をしているところである。

現在、ここ数年に建った学校以外は今後長寿命化をどうするかということ業者委託している。これも年内には若干資料が出てくるかなというところだが、資料に挙げている耐用年数が過ぎているものについては大規模改修による延命なのか、改築なのかということになるとやはり相当古い木造なので、子どもの学習環境でいくと少し新しい学校をとということを希望というか、良いところではあるが、金額的なものがあるということと、お示した様に将来あまり増える見込みのない中で投資をするのかということをご検討いただければと思っている。

何度も言うが、統合ありきではないということでのお願いではあるが、現実問題こういった問題を抱えている学校があるということ

なので、そういった面を含めてご検討いただければと思う。

資料に合わせて長々と説明させていただいたが、この辺が一番大きな課題となっている。

第1回の審議会の中でお配りした文科省が示した適正規模とか通学路でもし小さい規模でも残すのなら、こういった地域支援であるということもあるので、そういったことを照らし合わせながらしていただくと選択肢というところで一定の方向性が出るのではないかと思っているので、よろしくお願ひしたい。

会 長

事務局から一連の資料の説明をいただいた。実態の状況をお話しいただき、具体的に検討資料の内容の説明もあった。

まず、前回第1回の5月24日の審議会において、その翌日に新聞紙上等に掲載された。私にもある方から連絡があった。合併ありきが少し先行した様で、受け止め方の相違だと思うが、かなり委員方にも色々な面での問い合わせがあったのではないかと思う。あまり情報が先行すると色々な面でまた難しい部分が出てくるので、少しその辺の問題には十分ご配慮いただければと思う。

今日は特に色々な資料の提供なり説明をいただいた。県下の状況やあるいは浜田市の中でも旧浜田市が非常に校舎の傷みがひどいという状況があった。

まだまだそういった様な統合等というところまでには相当まだ距離があるわけだが、今日はまずそういった一連の資料の説明を受けて委員方が感じたこと等について、説明いただいた資料の中でご意見ご質問等があればお聞かせいただければと思う。

委 員

説明いただいた資料の中で、鉄骨と鉄筋、木造とそれぞれの耐用年数が示されているが、これは国の基準か。私の認識の中では鉄骨と木造が同じ耐用年数という認識がなかったが、国で定められた基準による耐用年数か。

事務局

いわゆる施設整備上の基準ということで、補助金上とか色々ある。

委 員

建物の構造による耐用年数ではないということか。

事務局

構造を基に決められているとご理解いただければと思う。

会 長

今、委員からご意見があった様に、この耐用年数が国の基準に基づいているのかという点である。

事務局

国の基準である。一般的なただの木造だと減価償却が25年とか色々あったりするが。

委 員

構造上木造であっても、それだけの耐用年数はある建物であると

事務局
委員

いう考え方で良いか。

そうである。

一般的に国が定めている耐用年数があると思うが、そういうものではないのか。

事務局
委員会
会長
事務局

いわゆる減価償却が税法上のものとは違う。

承知した。

耐用年数が税法上のものと違うということである。

税法上で木造とかプレハブとか色々に分かれているが、これは施設上の、建築上の耐用年数であるのご理解いただければと思う。ただ、40年経ったからダメかと言われるば実際にはそうではない。当然学校なのでメンテナンスはするが、あまりにも古いものとか傷みが出てというものは確かにある。

委員
事務局

現状の小・中学校は、耐震対策はすべて済んでいるのか。

建物としての耐震は基本的に校舎、体育館ともに済んでいる。ただ、残っているのが非構造部材ということで、構造的に吊ってある天井、吊り天井が揺れることによって落ちるのでそれを今順次進めつつある。逆に診断によってI s 値で耐震強度があると評価を受けたものについては耐震工事をしていないが、基本的に浜田市での耐震補強工事は完了している。

耐震補強はしているが、それは地震が起きた時に倒れないということであって、ものが良くなったというわけではない。議会でも耐震したから新しくなったのかと聞かれたが、そうではない。あくまでも震度6なり6強が起きた時に崩れない、というだけであり、新しくはなっていない。

委員
事務局

浜田自治区の学校区の関係で確認だが、第一中学校は石見小学校と三階小学校の校区が第一中学校の校区か。

松原小学校が中学校に行く時に、第一中学校と第二中学校に分かれている。その辺も課題ではある。

中学校の時に複数の小学校が集まるということはあるが、ここは今逆になっている。

委員
事務局

そうすると第二中学校は松原小学校の一部と原井小学校と雲雀丘小学校。第三中学校が長浜小学校と周布小学校。第四中学校が美川小学校。

ただ、実際には熱田のバイパスの出口の辺の方は結構校区外の方がいる。雲雀丘小学校が近いが、長浜小学校が新しくなったのでそちらに行かれる方もいる。

事務局	具体的な各町内、校区については前回資料の資料 6 をご覧いただきたい。
委 員	弥栄小学校の位置を訂正しておいてほしい。ずれているのでちょっと違うと思う。
事務局	承知した。
事務局	原井小学校の一部も第一中学校に行っている。紺屋町。
事務局	旧浜田が原井小学校の場所が少し変わり、松原小学校も昔は役所の前にあったが、移転したという中で、学校は変わったが校区が変わっていなかったということがあり、結果的に校区が若干入り乱れている。校区についても今回の諮問の中でも理由に入っている。
会 長	他にはないか。
委 員	学校の体育館等が災害時の避難場所に指定されている場合があるかと思うが、もしも統合で小学校や中学校でなくなってしまった場合の建物の管理は結局どこがするのか。
事務局	その辺が時と場合というか、例えば統合によって解体をすればそこは当然なくなる。ただ、統合について地元との色々な話し合いの中で、自分たちが管理をするから公民館なり集会所として残してほしいということがあり、そういう協議が整えばその様なかたちで残る場合もある。その場合は避難所のままということもある。解体すれば当然なくなるので、その場合は周辺の別の場所、もし新しい学校が統合でできればそこへ行く。
	旭だと今市にあったが、今回上に上がったので、そこを新たに指定するという様になるが、旧の方も他にセンターがあつたりするので、変わる場合もある。その時の条件によって変わる。
	旭は道路の関係で今市を解体する可能性があるが、和田は残っている。木田は地域の施設ということで利用されている。
	その辺は仮に統合という話が出れば、その時に色々な調整をするということになる。
委 員	波佐小学校は課題がたくさんある学校、エリアだが、地域でも随分私たちは学校の P T A とか自治会とか、まちづくり組織等を皆集めてその都度話を出しており、厳しい条件下にあるということを地域の皆が知っている。
	一応この 10 年間のシミュレーションをしていただいている中でも本当に厳しい数字が出ているわけだが、前回の時にも、統廃合の条件の中では地域実情をよく考えて、鑑みてという様なこともあった。そこを私たちは一番大切にしたいと思っている。

事務局

一生懸命地域活動で小学校の立ち位置というものをしっかり明確にして、なくてはならない大切な施設だということを思っている。色々な地域活動の中でも、小学校を取り込んだ地域活動をやっている。そうやって生き生きと子どもたちが小さいながらもしっかりしてくれれば非常に嬉しいと思っている。

そういったことで、先ほど4つくらいの理由を挙げて、説明をいただいたので非常に嬉しく思っている。一生懸命地元としても努力するので、よろしく願いたい。

先ほど事務局側の考えをある程度説明させていただいたとおり、まず統合ありきではない。地域条件について説明させていただいた。以前は一定の規模を求めるということがメインだったが、全国的に市町村の統廃合が行われつつあり、どうしても小さい町が残った中で、小学校・中学校1校ずつしかなくなったところも、では行政区を越えるのかということもあるので、その代わり学習環境でやはり若干厳しい面も出るので、そういった面でも地域がどうやって残していくか。統合しないという選択をした場合には、というところにも色々と記載があるが、地域で色々な活動をされていることは認識をしているので、さらにそういったもので学校支援をしていただければと思う。

ただ、そういった中で1桁になった場合はどうするかということを中心に心配するところもあると思う。これはあくまでも現状の数字なので、転居があったり、逆に転入があったりすることがあるかもしれないが、そういう変更は当然あり得ると思っている。

その辺はやはり地域の中でしっかり話をさせていただくことが必要になると思っている。

旭も、もともと2つに統合しようという話を進める中で、予想外に児童数が減ったということがあり、1校にすると、これは保護者側から、地元側から提案があった。

旧浜田でも例えば宇野小学校だともともと国府小学校へという話があったが、子どもが減ったので、自発的に予定より早めに一度上府小学校でワンクッションおいて、少し大きいところに慣れて、ということを経験された。

いわゆる苦渋の決断だと思う。子どもがいなくなることによって地域が寂れるということはどこでもあることだと思うが、それをあえて地域から出されたということはありがたいことであり、それだけ子どもが1桁近くになると、本当に行事ができなくなるというこ

とがある。運動会、学習発表会、保護者も含めて楽しみとしている行事ができなくなるので、そういったところも含めてまた検討いただくことになると思う。

可能であれば定住対策等で増えると良いが、なかなか全国取り合いの中で例えば波佐だけが増えるということは難しいと思うが、そういった努力も含めてまたお願いをさせていただければと思う。

会 長

委員から貴重なご意見があった。私も旭だが、以前は5校あったものが今では1校ということで、本当に地域が疲弊している。

子どもがいないということがいかに寂しいことか、つくづく感じている。地域にとっては大変大きな問題である。本当に慎重に慎重を期して進めていかないと色々な問題が残ってはいけないので、その辺を重要視しながら取り組んでいかなければならないと思う。

委 員

先ほど地域の保護者の方からご意見が出て統合に至ったという話があったが、それはどういう時点で保護者の方のご意見を聞かれて、そういう経緯になったのか。

たぶん統合に関わる、以前もこういう会議があったと思うが、こういう会議で素案が出て、それで保護者の方に説明をして、また保護者の意見を取り込んで会議の中で決定したのか。どういう経緯を辿るのか。

事務局

前回もこういった諮問を平成20年にさせていただき、それを受けて2か年かけて教育委員会で諮問を受けたことによる計画を作り、それに基づいて順次進めていったわけだが、当時の詳細を把握しているものが今いない。

例えば宇野小学校は私の母校で、保育園もないし小学校、中学校ともなくなったが、地域活動が非常に盛んなところで、今もある程度やっているが、その中でやはり子どもたちの活動ができなくなったということで、将来的な統合計画が出ていた。宇野小学校と有福小学校と国府小学校を統合しよう。場所をどこにするかは決まっていなかったが、一応計画の中でそういう大まかな案は出ていた。いつするか、どういうタイミングでするかという話し合いをしていく中で、予想外に子どもが減ったということで宇野小学校は先に一度上府小学校に統合した。保護者としても一度に動くよりも少し大きなところへ行って、ギャップというか、慣れさせようということがあった。当然統合に合わせてスクールバスの条件が出たが、そういったかたちでしている。

旭ももともと2つに統合しようというところが1つにということになった。

委員 それは会議の中で素案が決まって、地域に話を持って行って、地域の中でそういう話が出たのか、地域から統合する様な計画があつて、こういう会議で話されたのか。どちらが先か。

事務局 こういった審議会の中では旭については5校から2校というかたちで一旦答申をいただいている。その後該当地区の説明ということで説明をした際に、具体的に和田小学校と市木小学校が統合して、木田小学校が今市小学校と統合して、和田小学校と今市小学校で2校という案だったが、2校になっても複式学級の解消とはならなかったもので、保護者の方からそういうことであれば複式学級の解消として1校にするという様な要望が、答申の後の説明の中で出てきて最終的に1校になった。

委員 承知した。

3 協議事項

事務局 今説明をした中で結果的に委員方にお話したことが諮問ということであるので、実質委員方の質疑の中にあつたのかなと思う。

ただ、繰り返しになるが諮問としては小・中学校の適正規模と適正配置についてとしている。

その中で小規模校のあり方、通学条件、学校施設の更新、地理的要因や地域事情等を踏まえた小・中学校の配置及び通学区域の見直しについて。

2番目として、建設計画の基本方針について、ということで諮問させていただいている。

これは前回も説明させていただき、先ほどの質疑応答の中でもこの内容についての質疑をいただいているので、改めて協議というよりも、再度お願いをさせていただくということでご確認をいただければと思う。

会長 前回5月24日の時の、統合計画の諮問についての内容を再確認いただいた。

今日は色々な実態、状況等をお話しいただいた。あまり突っ走ってもいけないし、先ほど委員からも話があつた様に、どちらが先かということもあるので、慎重に色々なデータや地域の声を聴きながら進めていかなければならないと思っている。

言葉的には、適正規模、適正配置とインパクトがあるが、現実には非常に厳しい難しい問題である。

大きな問題なので、慎重に進めていかなければならないと思う。

事務局

この諮問事項の中にもある様に小・中学校の配置及び通学区域の見直し等も踏まえて、色々な面も含めて検討していかなければと思う。

そういう意味では、今日は数字的な部分も色々と説明をいただいた。十分参考にしながら慎重に進めていきたいと思う。

前段のところと共通するところであり、まだ時間はあるのでご意見等あるか。

前回と今回も、数字的な資料を出しているが、委員方からもう少しこういった資料がないのかというご要望があれば、今すぐでなくても良いが、また1か月か2か月間をあけて会議を開催できればと思うが、何かないかということがあれば要望いただければと思う。

場合によっては市内の校長会の会長を呼んで、経験豊富な方がいるので、例えば小学校、中学校含めていわゆる市内でも大きな学校、小さい学校があるが、今回特に複式学級なり古い学校があるので、いわゆる教師として、運営上の問題とか教育をする上での問題点とかを聞くという様なことも可能である。

実際の現場の教師として、建物だと新しいものに越したことはないと思う。子どもたちも新しい学校の子たちはすごく楽しそうに遊んでいる。特にトイレの問題だと、最近では、市内はまだまだ洋式をすべて取り入れておらず、順次取り入れているが、やはりほとんどの家庭が洋式になる中で、学校のトイレを使わない。お腹が痛くても我慢するという様な子がいる状況の中で、順次整備を進めている。そういった実際の現場の教師の声を聞くということであればお願いをするということも可能である。それが養護の先生が良いとか、事務の先生が良いとかあればそれも考えることもできる。

校長会の校長くらいだと小・中学校とも行かれていれば、色々な経験があると思うので、もし聞きたいということがあれば、また調整ということも可能である。

資料的なものも含めて何かあれば提案をいただければと思う。

委員

直接学校の統廃合とはかけ離れるかもしれないが、例えば非常に離島や遠隔地とか山の中だとか、極小規模校がこんなにユニークな学校活動をやっているとか、そういった実例の様なものがあれば探してみてもらいたいと思う。

例えば小さい学校はこういうふうにして規模拡大をやっている

という様な実例。山村留学制度をやって子どもたちを呼び込んで
いるといったことを聞くこともある。

1年生から6年生までという様な一連の経営ではなく、例えば1
年生から3年生くらいまでは情操教育で心豊かにのびのびと育て
たいという様なところから、自然豊かな波佐小学校へおいでよ、
という様なことも考えられる。学力の問題になり、中学校への入
学が近くなれば少し大きい学校へ行かせようとか、要するに1年
生から6年生までセットでなくてもできる方法がないか。

金城は学校の設備が新しいので、非常にもったいない。そうい
う立派な学校ばかり残っているので、そういったところで1学級
増えたところで問題はない。教室は余っているわけなので。そう
いう様なことで、人数は増えたが3年生までしかいないという様
な学校経営ができるのかどうかは分からないが、そういう様なユ
ニークな方法も全国にはあるのかないのか。新しい情報がもしあ
れば。

事務局

できる範囲で収集させていただき、次回までに送られる状況で
あれば早めに送らせていただく。

よくテレビで見るのは、隠岐で高校生を呼び込んで、学力も上
げるということをやっているが、これはそれこそ町の存続をかけ
たくらいのレベルでやっているので、予算のかけ方も少し違う。
色々な事例があると思うので、探してみる。

委員

話がそれるかもしれないが、小・中学校のところで小規模校と
あると思うが、小中一貫という考えの示し方もあるかと思う。金
城地区では小学校、中学校がその地区にしかない。国府小学校も
国府から東にしかない。

先ほど話が出た第二中学校を、本当に大きい例えだと思うが第
二中学校が今年70周年になると思うが、老朽化で建物が直せない
ので、第一中学校と第三中学校に分けるというかたちで分けた場
合に、人数的にいったら仮に第一中学校と第四中学校、第三中
学校、浜田東中学校、人数の配分でいったらかなりの人数の格差が
広がると思う。他にもそういう進め方があるのかなと思う。

前にもお話した、鳥取県で、日吉津の方だったか、町の中で学
校がなくなることを知らなくて、地域住民が声を挙げて、小・中・
高の一貫校を作ったという経緯も聞いている。そういう取組とい
うのは、統合ありきではないが、できるだけここで考えてどうい
うふうに示していくことが良いのか。先のことを見据えての話だ

事務局

と思うので、地域性のこともあるかと思うが先々の流れの中でそういう考えもあるかと思う。

今話にあった小中一貫校という、そういう流れは今検討していない。浜田市内の小・中学校については小中連携という言葉を使っており、当然各自治区で小学校、中学校 1 校ずつのところは当然それで小・中連携になるかと思うが、旧浜田市内においても小・中連携というかたちを進めている。

今言われた小中一貫校というのはおそらく 1 つの敷地の中に小学校と中学校が一緒になってというイメージだと思うが、今のところそういったことについて検討するということには至っていない。

ただ、今後学校の再配置等を検討する中で、検討する 1 つの材料となる可能性はあると思っている。

会長

委員から貴重な意見があった。それに対して事務局からもお話があった。

小中一貫教育というものが全国的にも提唱されたり、色々なところで取り組まれ、そして浜田地区においては小中の連携教育という様なかたちでなされている。

将来的にはそういった小中一貫教育というのも出てくるかもしれない。今回の審議会の中では、そういったことも踏まえて勉強したり検討材料として入れていったりした方が良いのではないかと思う。

また、他の委員からもあった様に、確かに県内でも色々な難しい統廃合が実際にある。そういう実例や生の声を聞かせていただけたらと思う。地域におろしていくまでに十分に実態把握しながら、より良い方法で取組んでいくことが大事だと思う。情報収集をしっかりしていただき、この審議会で発表していただき、場合によっては先生方をお招きして、直にお話を聞いていってはどうかと思う。検討いただきたいと思う。

委員

先ほど話にあった、浜田市内の原井小学校と松原小学校が、その半分が校区によって第一中学校と第二中学校に分かれているということだが、雲雀小学校でいえば、笠柄だと長浜小学校へ行ったり、雲雀丘小学校へ行ったり、第二中学校、第三中学校へ行ったりするが、諮問の 2 番目の事項に地理的要因や地域事情等があると思うが、その部分も仮に区画をきちんと決めた場合に、実質人数がどれくらい割れるのか割れないのかということが分かれ

ば、資料で示してもらえたらと思う。

グーグルマップで示された4点、例えば第一中学校区の部分でいくと浜田東中学校と第二中学校で4.9 kmと4.2 kmだが、キロ的にいうとそんなに大差がないが、行くまでの過程でだいぶ違うのではないかと思う。

今後区域の切り方でどこまでを、紺屋町でいうと半分くらいが完全に石見小学校に行ったり、石見小学校に行くなら三階小学校に行った方がよいのではないかとか、そういうところもあると思う。

そういうところを新しく見直していくことも、小・中の条件的にも変わってくるのかと思う。

そういう資料があれば良いかと思う。

事務局

住居地エリアでは示せると思う。ただ、具体的には先ほど言った様に、若干校区外からの子もいるので、その辺はなかなか集約が難しいかもしれないが、住居地エリアで示すか、あるいは学校によっては校区外と分かる様にしているところもあるので、その辺の資料の準備をさせていただく。

委員

新しく区画をどの部分から分けるのかということも、すぐの話ではないと思うが、子どもの歩く距離にも関係するので、三階小学校が近いが石見小学校に友達がいるので、石見小学校に行こうとかいう子も出てくるかと思うので、その辺のところもきちんと線引きしておかないと受け入れの数も学校で概ね予想しているが、若干誤差があるのではないかと思う。

きっちり区画を分けていく話し合いも必要なのかなと思う。

事務局

どこの地域に小学生が何人いるということは出せると思う。

その辺も今回お願いしているところなので、自分の家から近いところの学校に行けないという子どもも結構いるが、それはそれなりの理由があつたりもする。中学校は部活で選ぶ子もいるが、小学校はやはりできれば一緒に遊んでいる子どもが一緒のところ、そういう意味では浜田自治区以外のところはほぼそういったかたちになっている。

浜田は2つの小学校が集まって中学校になれば良いが、逆に中学校が分かれるということになる。その辺は友達と一緒に校区外へということもあるかもしれない。

委員

旭自治区は小学校が1校になったタイミングで本当に各地区からスクールバスを出してもらって集まってくるというイメージに

なっているが、片道 30 分くらいかけてスクールバスで通っている子もいる中で、旭はエリアが広いので、山奥の子もいるのでそういうこともあるかと思うが、浜田市内の学校が、例えばこここの学校が統合ということになった時に、歩いていけない距離の子が出てくると、浜田自治区の学校の離れている距離が具体的にイメージできない。

例えばこここここの学校と大きく分かれることになった時に、スクールバスで送迎をして回るかたちになるのか、歩ける距離に全部学校があるのかということがイメージしにくい。

事務局

旧浜田自治区だと、いわゆるこの 10 年の統合で結構離れている地域は皆統合が完了しているので、その辺の子どもは距離が 4 km とかある子どもは当然スクールバスで、あるいは低学年は近くで拾うとか色々あるが、そういった対応をしている。

旧浜田のエリア内だと、石見、松原、三階、原井、雲雀丘、長浜小学校はそれぞれ距離があまり離れていないので、その中で多少ガラポンをしてもバスでないと行けないということはあまりないかと思っている。

極端に 5 つも 6 つもの小学校を 2 つにしようといったような話になればスクールバスが結構出るが、そこまですると受け入れの学校も大きなものを造らなければならないので、現実的ではないと思う。

同じ原井とか相生にしても、広いところとか少し山に入る子もいるので、個別の差はあるかと思う。

委員

私の子どもが昔三階小学校に行っていたが、三階小学校はスクールバスで通っている子もいたので、今の話が少し理解できない。

事務局

三階小学校は統合校である。長見小学校がなくなったため、長見の子どもたちは統合の時の条件でスクールバスで通うということである。

今の浜田の残っている学校の中で仮に統廃合や校区を変更しても、残った学校と地域は市内の中心に固まっている。

委員

残った学校の場合はスクールバスが新たに出てくるということは考えにくいということか。

事務局

あまり想定していない。ただ、今使っているスクールバスはそのまま使う。それをなくすということではない。

委員

合併した場合、以前は小学校まで歩いてきた子どもがスクールバスで通わなくてはいけなくなったとか、6 年間の途中で学校が

変わればそうなることもあると思うが、そういうふうに変わったり、学校が別のところに行くことになったりした子どもが、学校に行きにくくなったとか、バスの中でいつもとは違う、今までは歩いて行っていたがバスで行くことになって、何か色々学校の中で子どもの様子とか、元の学校の子どもと、新しく行く大きい学校との子どもとで何か問題は今までになかったか。

事務局

合併する時には、統廃合含めてだが、いきなりくっつくのではなく、それまでに学校同士でお互い交流を重ねている。いわゆる慣らしみたいなものがある。

国府小学校の時も上府小学校が統合する時にはその2年くらい前から交流学習というか、お互いに行き来するとかして、子どもたちに慣れさせるということをしていたので、大きな問題というものはないと思う。

ただ、当然小さいところから大きいところに行くので、子どもたちにプレッシャーはあったと思うが、それで問題があったということはない。

委員

諮問事項の中に、小・中学校の建設計画の基本方針についてとある。この中身の範囲が広がるわけだが、そういった前提の中に資料6-1の裏面にあるように改修を行う場合約106億円が必要である、非常に財政的に困難であるという説明があった。何か少しおかしい気がするが、どの様に理解したら良いか。

事務局

当然諮問しているので、審議会の中ですべて建替えるべきだという答申が出れば尊重しなければいけないが、現実問題として、もし古い学校を統廃合なく建て替えればこれだけの金額がかかるという資料なので、現実的には厳しいということをご理解いただければということである。

ただ、それを踏まえた上でもやはり建替えるべきだという答申が出れば、それを変えてくださいということはない。あくまで事務局が諮問しているので、色々な協議をして必要な資料も出して、やはり浜田の今後のことを考えれば全部を建替えるべきだという答申が出れば、それはそれで受けないということはない。

ただ、ご理解をいただきたいということである。よろしく願いしたい。

委員

美川小学校の劣化が激しいということだが、今後2、3年の間に地震がある時に、美川小学校が何かあった場合は何か対策をされるのか。まだここで検討していないので建替え自体できないし、

事務局

かなり古いのかと思う。雲城小学校も古いと思うが、どの様な感じなのか。これは市の見解で、美川小学校自体がどの様な状態なのか、この5、6年は大丈夫というものなのか、あくまで基準以外で見てみて、美川小学校自体は何か災害があった時には危ないということがあるのかどうかということもお聞きしたい。

先ほど言った様に、耐用年数が来たらすぐにだめだということではない。当然メンテナンスをしている。ただ、美川小学校はメインのところはもう築後77年になる。雲雀丘小学校が61年なので、いわゆる40年を遙かに超えている。

本来だと抜本的な手入れをしないといけないところをしていない。耐震の補強についてはしている。雲城小学校は耐震工事もしているが、大規模改修ということで一定の手入れをされている。残でいうと6年だが、そういう大規模改修によって手入れをされている。弥栄中学校もそうである。浜田がなかなか予算もなかった面があるのだろうが、大改修をせずずっときているというところで、ただ耐用年数を過ぎていくということではなく、相当過ぎていくという状況がある。逆に言えば70年前の当時の設備を考えていただければと思う。雲雀丘小学校だと、長浜小学校改築の時に長浜小学校で捨てるはずだった調理台を持って行っている。もともと雲雀丘小学校にはなかった。調理台がなく、ガステーブルしかなかった。建替えの長浜小学校の古いものを持っていくしかなかったという状況があった。

本来市の教育にもっとお金をかければ早い段階でできたかもしれないが、現実的にはそういう状況にある。

同じ授業を受ける子どもも格差が広がっているということは少し問題かと思う。何もかも新しいということが良いということではなく、古いものも大事にするということも大事だが、同じ授業をする中で道具とかそういったものの有る無し、パソコンは皆新しく整備しているが、備品でない設備的な差が大きいということはある。

木田小学校みたいに地域も含めてすごく大事にされていて、廊下の雑巾がけの競争だとか、地域おこしに使われる場合だといいかもしれないが、すばりがたつ様なところとかは少しどうかと思う。

委員

先ほどの話で出たが、学校の設備によって教育に格差が出ているのではないかという話があったが、たぶん子どもを通わせてい

事務局
会 長

各委員

る保護者であるとか、通っている子どもたちはその学校しか知らないのでは、どう違いがあるのか、新しく建った学校と自分たちの学校と何の設備の違いがあるのか分からない状態で、もしも何か話があった時に、話を聞かなくてはいけない状態になる。

もしも、新しい学校にはこういうもの、設備があつて、今の老朽化している学校にはこれがない、という様な具体的な格差が分かる様なものがあれば、良いかなと思う。

写真か何かを付けられればそのようなものを準備する。

色々ご意見いただき、事務局からも説明をいただいた。

他はよろしいか。

特になし。

4 その他

会 長
事務局

次回の日程等説明をお願いしたい。

資料等の準備も含めて、一定のものができた段階でご案内させていただけたらと思う。また調整させてもらえたらと思う。

前回昼開催で、今回夕方に開催させていただいたが、出席率でいうとやはり夕方の方が多くの方に出ているので、次回も6時半くらいから開催できたらと思う。

委 員
事務局

日程について概ねどのくらいの時期かは分かるか。

9月は議会もあるので、2か月あけるくらいのイメージで思っていたらと思う。

委 員
事務局
会 長

10月くらいか。

10月くらいをイメージしていただけたら。

ご意見を色々いただいた。事務局からも話があった様に、次回ではご意見のあったことを踏まえてまた資料の提出をお願いしたい。

やはり学校統合計画審議会は十分協議が必要だと思うので、色々な角度から資料なり提出いただければと思う。

これから大体2か月に1回ということである。これからまたそういう方向での審議会になるかと思うが、今後ともよろしくお願いしたい。

事務局

盆の前に、遅い時間に集まってお聞きありがとうございます。冒頭会長も言われた様に、非常に委員方には重い荷を背負わせていると心苦しく思うが、今後も引き続き慎重審議をしていただき、良い方向性を見出していただけたらと思うので、引き続き

| よろしくお願ひしたい。